

令和6年9月24日
株式会社シーエス・ワンテン
日本アムドックス株式会社

番組審議会議事録

- ・日時 令和6年9月24日（火）14時00分～
- ・場所 MTVジャパン 会議室
- ・委員 審議委員総数 8名
出席審議委員数 7名

（出席委員）

委員長 片岡 朋行（ヴァスコ・ダ・ガマ法律会計事務所 弁護士）

議長 江口 靖二（合同会社江口靖二事務所 代表社員／
一般社団法人デジタルサイネージコンソーシアム 常務理事）
小柳 大輔（株式会社Interview 代表取締役）
野村 達矢（一般社団法人日本音楽制作者連盟 理事長）
芳賀 康浩（青山学院大学 経営学部 マーケティング科 教授）
平島 綾子（株式会社日経BP 日経エンタテインメント！編集 編集長）
松尾 健司（株式会社ジャパンエフエムネットワーク 顧問）

（衛星基幹放送事業者：株式会社シーエス・ワンテン）

福田 泉（代表取締役社長）
中口 裕丈（編成局長）

（番組供給事業者：日本アムドックス株式会社）

梅田 昌宏（MTVジャパン代表 兼 営業部門 部門長）
関戸 美帆（チャンネルオペレーション部門 シニアディレクター）
戸田 裕介（チャンネルオペレーション部門 TAMディレクター）
河内 英理也（営業部門 セールスマネージャー）

- ・ 審議番組 「MTV TALK SESSIONS：オーロラ×アイナ・ジ・エンド」
- ・ 放送概要 2024年9月21日（土）24時00分～24時30分
- ・ 番組内容

MTVでは、ノルウェーで生まれ育った北欧ポップスの新世代歌姫“オーロラ”と、天性のハスキーボイスと独自の表現力で見る者を魅了するアーティスト“アイナ・ジ・エンド”による対談番組を9月21日に放送しました。緊張した面持ちの初対面から、語り合いながら打ち解けていくことで、最終的には即興のコンテンポラリーダンスを行うまでとなり、視聴者へお互いのアーティストとしての魅力がより伝わるような番組制作を心掛けた。

・ 委員からの意見とMTVの回答

- 編集基準については、問題となるような表現や発言はなかった。
- 「オーロラ×アイナ・ジ・エンド」という組み合わせが非常に良かった。同世代の女性アーティストとして、お互いを称え合っていることが感じられ、番組企画・キャスティング共に素晴らしいと感じた。
- 30分のインタビュー番組は一般的には長いと感じるが、そのような印象を全く感じなかった。いい意味でたっぷりと見たような、充実感のあるクオリティの高い番組であった。
- お互いのアーティストのことを知らずに見たとしても興味を持つ内容の番組だと感じた。
- アイナ・ジ・エンドさんがインタビュアーの立ち位置になる場面が多かったが、オーロラさんの魅力を引き出していると感じた。
- オーロラさんのキャラクターが日本の視聴者へ良い印象で伝わる内容で、性別問わず、日本でもさらに支持されるアーティストになるのではと感じた。
- セクシャリティや政治的な話、ノルウェーの環境に対する話など、音楽に限らない多様性に富んだ対話となっていたが、音楽の話と音楽以外の話の番組内でのバランスもよかったと思う。
- オーロラさん自体が、ユーモアと根本的な知性のあるアーティストということもあり、回答もウィットに富んでいて、視聴者としても嫌味を感じずに、興味深く番組を楽しむことができた。アーティストとしての深みのようなものが回答の端々から感じられた。
- オーロラさんの「政治の原動力は恐怖だけど、音楽の原動力は愛」という表現、そしてそれを放送で伝えたことはすごく良かった。視聴者も刺激を受ける内容で、色々考えるきっかけになると思う。
- アイナ・ジ・エンドさんにとっても、今後のアーティスト活動において、良い刺激を受けているような印象を受けた。
- 日本の音楽が世界で注目されている中で、MTVがこの番組を制作することはとても意義があり、アーティストの活動においても大きな貢献になると感じる。
- 日本の音楽・アーティストが世界に進出していくには、海外のアーティストとのコラボレーションは大切だと思う。良い相互作用が確実に起きるはずなので、今後もたくさん制作してほしい。また、海外での放送も期待したい。
- 画面を二分割にするなど、会話を聞いている側の表情もしっかりと見せていることがよかった。インタビュアーがいない分、二人の対談をしっかりと見せる良い編集であった。ミュージックビデオのインサートも効果的でセンスがよいと感じた。

○収録背景の本の傾きが気になってしまった。例えばノルウェーの雰囲気を感じさせるような場所で収録できていたりすると、より見え方がよかったのではないかと思った。

○番組の内容が素晴らしく、キャスティングも魅力的なだけに、番組スポンサーがついてないことが残念に感じた。

○今後も対談番組を制作するのであれば、しっかりとした番組の雛形が必要だと感じた。「この番組を見ると他では見られないアーティストの考えを聞くことができる」「お互いの生まれ育った環境をぶつけあって個性を引き出しあうことでエキサイティングな対談が見ることができる」というような、視聴のきっかけになるようなコンセプトや、インタビュアーやMCを立てることも手段の一つだと思うが、何かしら番組の軸を明確に打ち出せると、他の対談番組との差別化が図れるのではないかと思う。

(MTV側)

近年は海外アーティストも出演する番組制作ができていなかった。貴重なご意見を受けて、今後このような番組を定期的に制作できるような方針を検討していきたい。

・審議機関の答申、又は改善意見に対してとった措置、その年月日

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和6年9月24日以降、編成担当及び番組制作者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、更なる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

・審議機関の答申、又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日

令和6年10月以降に、シーエス・ワンテンのホームページに審議会概要を掲載、また、MTVでの放送内でも公表する予定。